



CCC学生スタッフによる

地域に根ざし、世界に開く

# コラボ通信

第16号  
2008年8月5日

## 目次

「エコメッセ」が行われました!!!	1~2
☆今年の夏は国際交流ボランティア☆	3~4
ノートテイク講座スキルアップ勉強会 in 長久手 CCC	5
障がいのある学生さんの支援について考えてみませんか?	6~7
ノートテイク体験講座 開催決定	8
ボランティア活動に参加しました!!!	
~星ヶ丘キャンパス編~	9
~長久手キャンパス編~	10

CCC はボランティア活動を通して学生が学外のコミュニティ（地域）に参加し、地域の方々と協働するなかで活きた知識を学ぶことを支援する、2006年9月よりスタートした新しい教育機関です。

ボランティア活動などを推進し、学生が積極的に社会と関わりながら大学で学んだ知識を地域に活かせるよう支援しています。今までに、多くの学生がCCCを通して様々な活動や企業と連携した企画に参加しています。

## 7月12日（土）星ヶ丘キャンパスにて「エコメッセ」が行われました!!!

2010年に名古屋でCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）が開催されることが決定しました。そこで、愛知県内7大学で環境をテーマとして「朝日新聞 環境7大学集中公開講座2008」が行われ、本大学では講演会と学生団体の活動発表を実施しました。当日は、500人を越える来場者があり、会場全体が熱気に包まれていました。

始めに、イベントとして、コミュニケーション学部の学生が落語で場内を盛り上げた後、末吉竹二郎氏をお迎えして、『地球温暖化を巡る世界の流れ』と題した講演を行っていただきました。講演後は、16団体が集まり、普段のエコ活動を発表する場となりました。



当日の様子

### 末吉竹二郎氏の講演を聴いた学生さんの感想を紹介!!!

私は、末吉さんの講演の中で、現在の世界環境がビジネスと繋がっていることを学びました。それは、環境を推進していくことが、これからの国の在り方であり、経済の中心になるということでした。これらは、私達の生活に直接的に関係していると私は考えます。

私は、この講演を聞いて私達自身が環境と向き合っていかなければいけないと思いました。この消費社会を変えることはできません。しかし、一つ一つの行動を減らすことは出来ます。消費革命を起こすには、まず私達若い世代が環境について学んでいく事が、第一歩だと思いました。

医療福祉学部3年 熊崎完さん

### 末吉さんと談笑中



末吉さんと歓談



最後に皆でハイチーズ!!!

# 「エコメッセ」に参加した団体を紹介！！

エコメッセに参加していただいた全ての団体にインタビューしました。各団体、本当に素晴らしい活動を行っています。今回はその中から6団体の活動を紹介します。

## 突撃、インタビュー開始!!こんなことを聞いてみました♪

- 1、普段はどんな活動をしていますか？
- 2、活動を始めたきっかけは？
- 3、活動を通して楽しいことをおしえてください。
- 4、エコメッセで一番伝えたかったことは何ですか？



### しゅくエコ

1. エコポン紹介。
2. 地域の方と関わりたいから。
3. エコに関心のある人と関われるから楽しい!!
4. 「身近なところでもできるよ。」ということ。

エコポンとは、地下鉄等を利用すると、エコマネーがもらえるシステムです。

### みーちゃんと仲間たち

1. 建築やデザインの勉強をしているメンバーによる子ども達への紙芝居、作品作りを通じた交流活動。
2. 街路樹が廃棄される現状を知って驚き、身近な街路樹を使って何かしたいと思った。
3. 子ども達との交流で自分達も学ぶことができる。いろいろな人がいるので、より良いものができる。
4. 街路樹の現状。身近なところに問題があることに気づいて欲しい!!

### ほりかわC3

1. 堀川の実地調査
2. 代表さんが、「堀川を清流にしよう!!」という活動を高校時代していて、大学でもやろうと立ち上げた。
4. 堀川でも見どころがあること。堀川が、「きたない」ということを認識してもらいたかった。

1年生が集まって結成したばかりの『ほりかわC3』。現在、メンバー大募集中です!!!

### みのむし

1. 都市環境デザインコースで建築の勉強をしている学生が集まり、こどもたちの遊び場「みのむし」を作って、『アーキテクト2007』に出品した。
2. インターネットで見つけた。
3. 子どもが予測不可能だから。
4. 「みのむし」が絶滅危惧種になっていることから、「昔は生きていた動物がいなくなっていることや子ども達はその生き物を知らないこと」を伝えようとした。

### 虹のとびら

「虹のとびら」代表の山口清次さん(社会人)にインタビューしました。

1. フェアトレードカフェショップを経営している。
2. 船で地球一周をしたとき、いろいろなものを見て、いろんな問題に触れたから。
3. 問題に真剣に向き合って、仲間と話しているとき。
4. 「あなたが動けば、世界は変わる」

### 小川ゼミ☆エコ田組

1. 名古屋のゴミのゆくえを調べた。
2. 友達に誘われて興味を持ったから。
3. リサイクルの現場に行って、自分の目で見て感じられるところ。
4. 自分達でできることをやってほしい。

# ☆今年の夏は国際交流ボランティア☆

もうそろそろ夏休みが始まりますね。今年の夏は、どんなことをする予定ですか？CCCにきてくださる学生さんの話を聞いていると、海外スタディツアー、キャンプ、バイト、実習...と様々です。

今回は、毎年人気の国際交流ボランティアプログラム「富士山国際エコキャンプ村」について、主催者の方にお話を聞きました。ちょっとしたきっかけで、今年の夏はいつもと違う夏が待っているかも？！



## 富士山国際エコキャンプ村って？

富士山国際エコキャンプ村では国内外からの若者、約50名が一週間共同生活を送り、ボランティア活動を行います。グループ別に分かれ、竹林整備・農業支援・清掃活動といった環境活動を体験します。また海外の参加者との交流もあるので、エコキャンでいくつものことを体験できます！！夜にはBBQや花火も♪常に自分の意見を求められ、一人のエコキャンメンバーとして自ら考え、動く積極性を学ぶことができます。



主催者の北見さんよりメッセージ！

## 人は人に出会って人になる

何よりもみなさんにエコキャンプ村を通じて伝えたいことは**地域に飛び出して欲しい**ということです。その地域の中で本気で生きている人々と出逢い、自分に何ができるか試してほしい。その中で見えてくるものは地域の大切さ、人の素晴らしさ、そして、最終的には自分自身がみえてくるのです。

「人は人に出会って人になる」という言葉があります。「自分らしさ」「自分の生き方」は決して一人で考えていても何も見つかりません。何かをしたとき、誰かと出会ったときに見えてくるのです。そういう意味では地域は最高の場所です。地域の中で迷っている人、自分に自信が持てない人ほど、多くのことを学ぶことができます。

是非、みなさんの**「はじめの一步」**を期待しています。さあ「チャレンジ」をはじめましょう。

## 昨年、参加した学生さんの声を紹介

文化創造学部 3年 堀 友弥さん

夏に思い作りそしてボランティアを始める一歩として是非オススメです。行って損は全くないです。

**とにかく楽しいです！！**

皆、個性豊かな人が集まってくるために普段作ることの出来ない

**繋がり**を作ったり、**自分自身をかえたり**することができる！！

**暑い夏にアツいボランティアを！！**

この繋がりからウクライナに行ってきました



北見<sup>さん</sup>



次ページへ

前ページに引き続き、堀さんの体験記をお届けします。



# ウクライナへ行っちゃった



春休みにウクライナに行ってきました。

そこで得たもの、感じたことは書ききれないほどあるのですが、今回は私がウクライナにいて感じた3つのことについて紹介していきたいと思います。

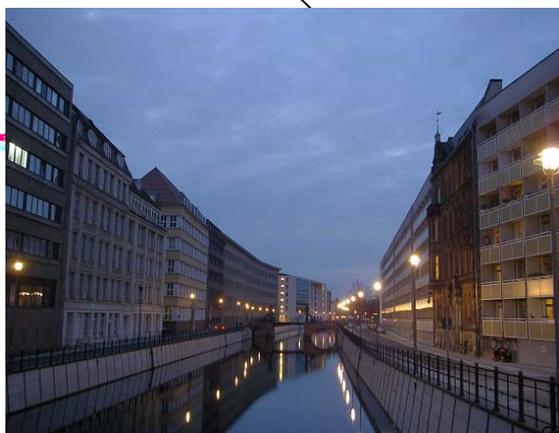
**1、人とのつながりを大切に！！** 私がウクライナに行くきっかけになったのは、富士山国際エコキャンプ村というプログラムで出会った、エレンというウクライナ人と仲良くなったことがきっかけでした。そのつながりがなかったら今回の旅行もなかったと思います。

**2、文化の違いは面白い！！** 日本とは違う文化を持った国で過ごすというのは毎日が冒険！！特にウクライナの人が普通に乘ってるバスはすごかった！ウクライナのバスでは、切符なんてなく、運転手にお金を渡して乗るシステムになっている。なら、後ろの席に座ってしまった人はどうするのかという、これがすごい！！なんと前の人に運賃を渡す。渡された人はまた前の人に渡していき、一番前に座っている人に渡し、その人がおつりをまた後ろの人に渡していく・・・。これはスゴかった。本当に！！

**3、旅先での出会いは素晴らしい！！** 英語をしゃべることは出来ないけど、笑顔で“全然平気だよ”といていた関西の旅人、私は“日本人が大好きなんだ”とずっと熱く話しかけてくるウクライナの画家、言葉は通じなかったけど電車の中で10時間共にした優しかったポーランド人・・・。ホントに色々な人に出会うことができ、世の中にはこんなアツイ人があるんだと実感できました。

みんなも是非、積極的に色々なボランティアや、プログラムに参加してたくさんのつながりをつくってください！！

**今年も富士山国際エコキャンプ村があるので参加してね！！**



泊まった友達のマンションの近くにある川だよ♪♪



ウクライナの学校の授業に急遽参加しちゃった！！



# ノートテイクスキルアップ勉強会 in長久手CCC

ノートテイク…「話の内容を同時進行で文字にして書き伝える通訳」

7月10日、2008年度前期ノートテイクの利用学生とノートテイクが集まり、前期の活動の振り返りをしました。

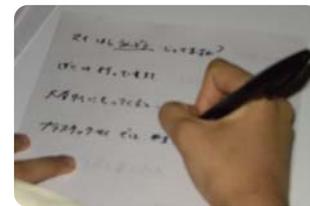
## ふりかえり

利用学生は、ノートテイクを利用して感じたこと、難しかったことを考え、ノートテイクは、活動を通して、難しかったことや課題をそれぞれが出し合い、意見交換をしました。



## ノートテイクの練習

ノートテイクがそれぞれノートテイクを行ってみました。



## 意見交換会



ノートテイクが書いたものを参考にして、利用学生と一緒に、使いやすいノートテイクとはどのようなものかを検討しました。ノートテイクを利用する側、活動する側の思いをお互いを知ることができる良い機会となりました。利用学生は、本音をなかなか言うことが難しい中で、今後のよりよい支援のために、今感じていることを率直に語ってくれました。そして、ノートテイクは、利用学生が使いやすいノートテイクのために、自分の足りないところを見つめなおすことができました。

## ノートテイクに質問

「ノートテイクを行ってみて、どんな感想を持ちましたか？」

- ・思いやりの心を持つことができた。
- ・学部や学年を超えた友達の輪が広がった。
- ・朝、早起きができる。(1限のノートテイクを行うため)
- ・集中力がついたように思う。
- ・自分の授業でも速くノートがとれるようになった。
- ・自分の学部とは違う授業が受けられて、勉強になる。

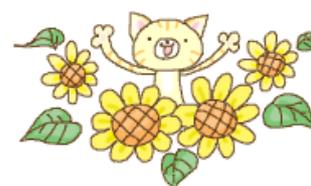
## 担当石黒先生より

現在、このようなノートテイクの活動を通して、ひとつの“つながり”ができつつあります。今後は、ノートテイクだけでなく、手話を楽しく学んだり、学外へと活動の幅を広げていくことができればと思っています。みなさんも是非、一緒に活動してみませんか？

興味を持ったあなた！！

一緒に活動してみませんか？

まずは体験講座へ！（P.8）



申込みはCCCまで



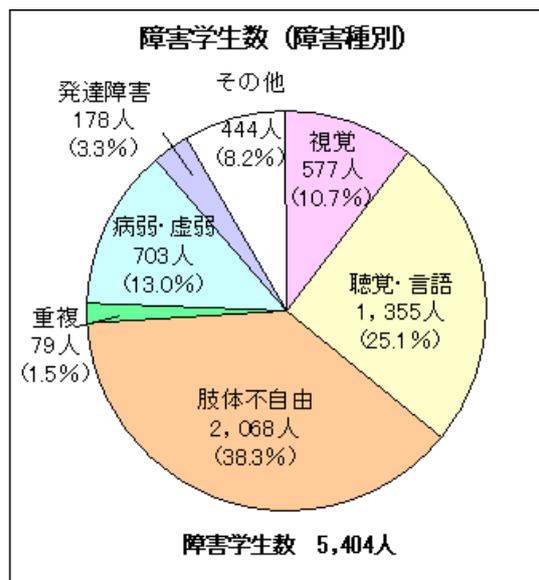
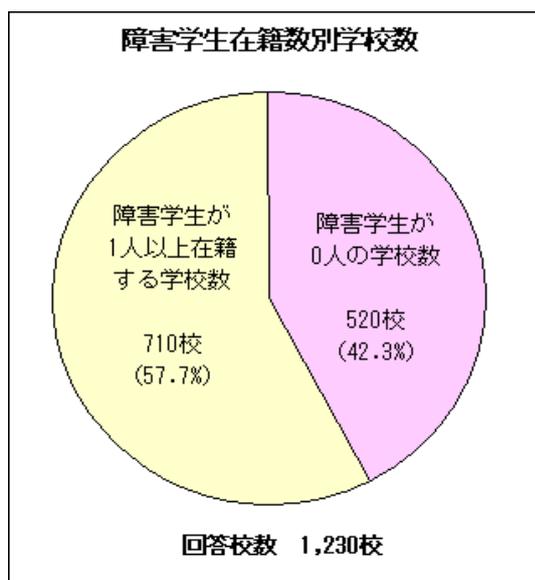
ノートテイクさんの頑張っている様子が伝わってきますね！！  
ここで、担当講師である石黒文字先生に、「障がいのある学生さんに対する支援」について伺いました。これを機に、みんなで考えるきっかけにしたいですね。

## 障がいのある学生さんに対する支援について考えてみませんか？

担当講師：石黒 文字

### 障害のある学生に対する支援の現況

全国の高等教育機関(大学・短期大学・高等専門学校など)には、障害のある学生さんがどれくらい在籍しているのでしょうか？独立行政法人日本学生支援機構が平成19年度に行った調査によると、平成19年5月1日現在、障害学生数は5,404人(全学生数に占める割合は0.17%, 前年度より+0.01%)、そのうち支援を受けている障害学生数は2,972人(全学生数に占める割合は0.09%, 前年度より+0.02%)だそうです。(下図参照)



障害のある学生さんが高等教育を受けるには、多くのハードルがあります。その主な論点は、時代によって異なり、「**大学への受験や入学**」、「**修学の支援**」、「**支援への理解**」の3つに分けられます。時代の流れとともに見ていきましょう。

#### ①大学への受験や入学(～1960年代)

戦前から、ミッション系大学([キリスト教](#)に関係がある組織や関係の深い人物が設立した学校法人によって設置運営されている[大学](#))において、視覚障害のある人たちの受け入れがあったとされていました。しかし、1960年代までは、受験や入学を拒否する大学が多く、高等教育を受けたくても障害を理由に受けられない時代が続きました。これが「**大学への受験や入学**」に関するハードルであり、1960年代まで課題とされてきました。

## ②修学の支援(1960年代～2000年)

受験や入学が認められなかった時期から、障害のある子どもをもつ親たちが当事者団体を立ち上げ、活動を広げていきました。その活動の甲斐あって、1960年代以降、受験や入学を許可する大学が徐々に増えていきました。大学への門戸が開放されたのです。しかし、障害のある学生の修学に希望の光がさす一方で、修学への支援は不十分でした。これが「**修学の支援**」に関するハードルであり、1960年代以降の課題とされてきました。

## ③支援への理解(2000年～)

そして現在は、「**支援への理解**」というハードルがあると言えるでしょう。実際に支援が充実してきたのは、1990年代から2000年代以降だと言われています。まさに、今なのです。修学支援の実施が多くの大学で始まりました。しかしその一方で、「支援は本当に必要なのか」「支援をどこまで行うべきか」「何が支援であるのか」といった支援に対する価値観が多様化しており、本当に支援が必要な人への理解が得られないという問題も起こっています。

近年、障害のある学生さんが高等教育を受ける中でハードルとなっている「**支援への理解**」は、一緒に学生生活を送っている皆さんにかかっているのではないのでしょうか？みなさん、大学における障害のある学生さんへの支援についてどのように考えますか？

本学のノートテイク利用学生のコメントを掲載します。

私は、聴覚障害があり、ノートテイクの支援を受けています。

ノートテイクがない講義では、友達にノートを見せてもらったり、黒板を見たりして、授業を受けています。しかし、先生の話や他の学生さんの発言の内容が分からないときがあります。ノートテイクがあると、ある程度の話の内容を知ることができ、授業が受けやすいです。

聴覚障害がある人たちは、“目”で情報を収集しています。相手の唇の動きで話を読み取っています。90分間ずっと先生の唇を見ることは、目の集中力をかなり使うし、ノートを取ることも難しいです。ノートテイクは、私たち聴覚障害のある人にとって、有効な情報保障の手段の一つです。

CCCでは、聴覚障害のある学生さんへのサポートとして、ノートテイクを行ってくれるノートテイク者を募集し、障害への理解を深める講座を開講しています。みなさんも一緒に障害についての理解を深め、障害のある学生さんのサポート活動に参加してみませんか？



問い合わせが多かったため…

# ノートテイク体験講座 開催決定!!!

ノートテイクとは…

## 「話の内容を同時進行で文字にして書き伝える通訳」

現在、聴覚障がいのある学生が授業を受ける際にノートテイクを行って下さる方を募集しています。

授業の空き時間に学内でできる活動ですので、ぜひ多くの方に関わっていただきたいと思います。

ボランティア募集に伴い、ノートテイクの体験講座を実施します。実際に活動しているメンバーも参加します。謝礼を含め、詳細はこの講座にてご説明します。

☆興味のある方はぜひ以下の日程のいずれかに参加してみてください☆

日 程：08年7月24日(木) 16:45～18:30  
 7月30日(水) //  
 8月5日(火) //  
 9月17日(水) 14:00～15:30  
 18日(木) //



場 所：CCC 長久手

担 当：石黒 文子(CCC)

申 込：CCCへ直接申し込み または…

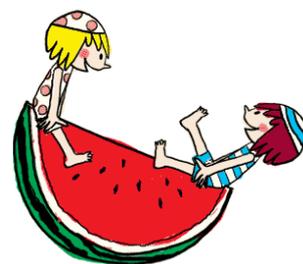
asccc@asu.aasa.ac.jp へ

タイトルに「ノートテイク申込」と明記の上

- ・学籍番号 氏名
  - ・参加希望日
  - ・当日連絡のとれる電話番号
- を送信して申し込み

\*星が丘キャンパスでも希望に応じて対応いたします。

問合せ先：CCC 石黒 文子





# ボランティア活動に参加しました

学生のボランティア参加レポートを紹介します！

## 森孝しぜんかん

医療福祉学部2年 阿曾 明香さん

今年の5月と7月に、レザークラフト講座のボランティアをしました。森孝しぜんかんは、知的障害者の入所更生施設で、デイサービスも行っています。

初めてのときは、正直、反応があまりないことにとまどってしまいましたが、2度目はとても楽しいと思えるようになりました。それは、前回に比べて、施設の職員の方との信頼関係も生まれ、状況に慣れたことが大きかったです。そして、前回の反省から学んだことを生かして、施設に来てくださった方と交流することができました。

継続していくことで、さまざまな気づきと学びが得られていると思います。今後は、11月に行われるお祭りの企画に携わっていく予定です。



## 星ヶ丘キャンパス編

## 子ども探検隊 引率サポーター

文化創造学部2年 森田 陽香さん

愛知牧場で、子どもたちと酪農体験(バター作り・乳搾り・動物のえさやり)をしてきました。今回は、二回目の参加で、子どもたちとも少しずつ打ち解けてきました。私が受け持った班は割と大人しい班だったので、皆のペースでのんびりと活動しました。中高生のボランティアの人たちとも積極的に交流をすることもできたので良かったです。

ボランティア活動をしていて、多くの人の協力や支えがあってこそ、現在の活動が成立していることを実感しました。子どもたちやボランティアのみなさん、児童館の方々など、色々な人との関わりがあり、その大切さを学びました。



## 通院している子どもたちとサマーキャンプ

医療福祉学部1年 萩野 由里絵さん

たくさん子どもたち、ボランティアさんや先生・看護師さんに出会えて楽しかったです。ただ、配慮が欠けていて、花火のときに担当の子が煙を吸って苦しい思いをさせてしまいました。子どもたちの気持ちになって行動するのは、難しいことだと思いました。

このキャンプは自分のこれからのためにも、良い体験でした。初めての1泊2日のボランティアで非常に心配でしたが、みんな無事怪我もなく過ごせてよかったです。ぜひまた参加したいです。

いつもは子どもを見ながら食事の準備を行うなど大変でしたが、今年はボランティアの方々協力してくださったおかげで役割分担ができ、子どもも安全にキャンプを楽しめたのではないかと考えております。  
ご協力いただきありがとうございました。



主催された病院の先生からコメントが届きました！

## 打ち水大作戦

### ～緑のカーテンキャンペーン～

医療福祉学部3年 伊藤 記世さん

「打ち水大作戦」の一環として「緑のカーテンキャンペーン」(アサガオなどのつる性植物の種を各家庭で育て、夏の暑さを防ごうというキャンペーン)に参加し、省エネを呼びかけました。一人でも多くの方に、種をまいて育てて、緑のカーテンを作っただけなら嬉しく思います。

今回のボランティアは本当に楽しく、心に残るものでした。スタッフ全員が前向きで、アドバイスやフォローもしていただき、活動しやすかったです。



7月23日に打ち水イベントが行われました！

夏本番！打ち水をして、気温を下げて、快適に過ごそう☆

# ボランティア活動に参加しました vol.2



長久手  
キャンパス編

## デイサービスセンター「極楽苑」 外出支援

コミュニケーション学部2年 三浦 千晶さん

デイサービスセンターのボランティアを体験するのは、今回が初めてでした。最初は緊張し、スタッフさんから指示してもらうのを待つだけでした。しかし、遊びの時間や体操の時間など、同じ空間を利用者の方々と共に過ごすうちに、自分から話しかけていました。私が話しかけると、打ち解けた様子で会話が弾むようになりました。何よりも利用者の方々の笑顔が嬉しくて、パワーになりました。

## デンソー「ハートフルクラブ交流会」で タンザニア紹介

ビジネス学部3年 酒井 佑梨さん

私たちは、デンソーの「ハートフルクラブ交流会」に参加しました。この交流会は、デンソーのハートフルセンターと地域のNPO 団体、ボランティア団体が活動報告や交流をするために設けられたものです。

前回の「小牧産業フェスタ」での活動では、タンザニアについての知識が不足していて、お客さんにタンザニアの魅力を十分に伝えきれませんでした。今回は、前回答えられなかった質問についてまとめて、事前にみんなで勉強しました。その結果、お客さんから質問された事にみんなが答えられるようになりました。特に民族衣装(カンガ)について詳しく説明することができ、たくさんのお客さんが興味を持ってくれました。また、前回よりも多くのカンガを販売することが出来ました。



ここが、タンザニアです。



## フリースクールサポート



コミュニケーション学部1年 宮端 優子さん

不登校という難しい状態にある子ども達と上手く接することができるのか最初はとても不安でした。しかし、スタッフの方々が親切に指導して下さい、活動も「うどん作り」や「アロマキャンドル作り」という体験型のイベントだったので楽しんで参加できました。また、スタッフの方に子ども達の良いところを見つけ、ほめてあげると彼らに自信がつくと言われ、そうするように意識していたのですが、ちゃんとできているのか、自分だけ楽しんでいるのではないかと少し不安でした。でも、後でスタッフの方に「ちゃんとできてたよ。」と言ってもらい、とても嬉しかったです。これからも参加して、もっと子ども達と深く関わっていきたいです。

暑い日が続きますが、ぜひ、夏休みを思いっきり楽しんでください。  
CCCは、夏休み期間(8月9日~17日を除く)もオープンしていますので、ぜひ遊びに来てください。(夏休み期間中の利用時間は、9:00~17:00です。)

	長久手キャンパス	星ヶ丘キャンパス
利用時間	9:00~18:30	
場所	アクティブラーニングスタジオ内	1号館1階
連絡先	0561-62-4111	052-781-1151
E-mail	asccc@asu.aasa.ac.jp	